**平成30年度社会福祉法人しいの木会事業報告**

**◆法人事業報告**

　平成30年度は新規にホームたんぽぽの運営が始まり、立ち上げに伴う費用として運営費を借り入れて準備をした。しかし、比較的早期にグループホームの利用者が増え、収支均衡のベースにのったこと、また、シーモックの利用者が増えたこともあり、ほぼ想定通りの事業活動収支結果となった。

（計画した事業に対する報告）

1. 社会福祉法人として2年目を迎え、職員処遇や利用者支援の充実を目指す計画に対して、新しいグループホームの開所もあり、職員の勤務体制など就業規則の見直しを重点的に行った。利用者支援の充実に関しては、希望された利用者についてきめ細かな面談を行った。
2. 給水設備の整備を進める計画に対して、調査や助成金の申請、理事会での検討などを行ったが、結論に至らないまま年度を超えることとなった。しかし今年度中も異臭などのために対応を取らざるを得ないことが多く、喫緊の課題として来年度に引き継ぐ内容となった。
3. 役員会等の実施状況

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 実施日 | 種別 | 参加者 | 決議事項 |
| 5月14日 | 書面による理事会 | 理事6名/ 6名 | ・公益財団法人ＪＫＡの補助金導入による車両の購入について |
| 6月6日 | 理事会 | 理事6名/ 6名  監事2名/ 2名 | ・評議員会提出議案の承認  ・平成29年度事業報告および計算書類の承認  ・新生町会への加入について |
| 6月23日 | 評議員会 | 評議員5名/ 7名  理事3名  監事1名 | ・平成29年度事業報告および計算書類の承認  ・平成30年度事業計画および予算の承認  ・定款変更の承認  ・役員・評議員報酬規程  ・ホームどんぐり土地契約の承認 |
| 11月27日 | 理事会 | 理事6名/ 6名  監事2名/ 2名 | ・第１回補正予算の承認  ・職員就業規則改定の承認、給与規程改定の報告  ・給水設備の更新について |
| 3月26日 | 理事会 | 理事6名/ 6名  監事2名/ 2名 | ・第2回補正予算の承認  ・令和元年度当初予算の承認  ・平成30年度事業報告および令和元年度事業計画の承認  ・工賃変動および設備等整備積立金取崩の承認 |

**◆シーモック事業報告**

今年度から就労継続支援B型は、事業所が利用者に支払っている工賃により本体報酬が変わることとなった。シーモックの場合11単位減となり、1日当たり4,300円、1ヵ月当たり約9万円の減額になった計算となる。（1単位が10.57円。1ヵ月21日稼働し、1日の通所者が37名と想定し計算した場合）

シーモックの場合は、平成29年度の平均実利用は1日あたり36名強だったが、平成30年度は38名強となり、2名増加したことで表面化しなかった。

**◆各部署の報告**

1. 就労継続支援B型（定員40名・利用者47名）

就労継続支援B型の平均実利用は、

1日当たり　シーモック34.2名　　プチ・シーモック4.7名

≪シーモック≫

1. 調理室（利用者10名）

4月に袋室の利用者1名の実習を行い実習後、調理室に配属となった。利用者もスキルアップし、作業効率も少しずつだが上がってきている。

1. 袋室（利用者18名）

利用者個々に合わせた支援を行ってきた。作業手順を一つ一つ身に付け、出来ることの幅が広がった利用者が増えている。実習や体験を経て、新しく4名の方が利用となった。(3月末で1名退所)

1. 2グループ（利用者13名）

クッキー詰め作業を中心に、8～10月にかけては食品乾燥機を使いお菓子に使用するいちじくの乾燥作業を行った。他に作業種として、シュレッダーやお菓子の袋作り（シール切り・シール貼り・日付印字など）、外部からの受注作業を行った。また、新規に内職事業所と契約をし、1年を通じ同じ作業が出来るようになった。

≪プチ・シーモック≫　（利用者6名）

シーモックの利用者2名の実習を行い、1名が利用となった。南総方面や支援学校、つるまい風の丘分校などの販売時に、菓子と一緒にパン（ベーグルだけでなく、2種類計10個程度）を販売した。売れ行きは好評で、パンの売り上げを増やすことが出来た。毎日3～5人の来客目標には今年も達していないが、以前に比べるとリピート客が増えている。

1. 生活介護（定員7名・利用者8名）

生活介護の年間の平均実利用は、1日当たり6.9名

男性5名、女性3名の計8名の利用者でスタートした。

活動内容はリサイクル作業（ ペットボトル・シュレッダー ）を中心に、　　　　創作活動、近隣の公園散策、買い物等を行った。また、健康維持のため、散歩、体操、踏み台昇降を行った。利用者のペースに合った個別の活動を提供した。

月1回のお楽しみ会は主に調理とレクリエーションを行い、利用者の楽しみ、励みとなった。日帰り旅行はホテルランチ（木更津）後、市原ぞうの国へ行った。

1. 相談支援

サービスの更新や新たなサービスを希望された時、アセスメント・モニタリングを行い、サービス等利用計画書の作成を行った。

30年度は計画書の作成数が延べ67件、モニタリング実施数が延べ74件だった。

（現在相談支援を受けている人数）

・シーモック利用者41名（うち30年度新規利用者3名）

・法人外からの依頼17名（うち30年度新規利用者1名）

1. 日中一時支援

余暇活動の年間の平均実利用は、1日当たり30.6名

利用者の地域生活を就労支援等に限らず、幅広く支える意味で週末の余暇活動として、自由参加の形で行っている。もう一方の目的として緊急利用の受け入れも行うとしているが、今年度の実質利用はなかった。

年間計画に基づき、計22回の余暇活動を行った。

（活動内容）

三和中学校でのよさこい、指導者を招いてのボッチャ、映画鑑賞、

バーベキュー、公園散策、カラオケ、工作（うちわ・クリスマスリース）、いちご狩り等

1. グループホーム

年度当初ホームたんぽぽでスタートしたが、4月17日よりホームたんぽぽとホームどんぐりに分かれて運営することになり、職員募集や利用者増などの対応に追われた。利用者の推移は下表の通りとなり、9月には何とか恒常的な赤字体質から脱却した。その後、見学者はあったものの実際の利用には繋がらなかった。

　（月別入居者状況）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 月 日 | たんぽぽ | どんぐり | 合 計 |
| 4月　1日 | 5名 |  | 5名 |
| 4月　8日 | 6名 |  | 6名 |
| 4月１7日 | 4名 | 3名 | 7名 |
| 5月　7日 | 5名 | 3名 | 8名 |
| 7月　9日 | 6名 | 3名 | 9名 |
| 9月　1日 | 7名 | 3名 | 10名 |

グループホームの介護給付費は障害支援区分による本体部分と夜間加算からなっている。ホームたんぽぽの利用者7名中区分5が1名、区分4が5名、区分２が1名に対してホームどんぐりは、定員5名に対し3名の利用で、区分2が1名、区分3が1名、区分5が1名と非効率の経営実態となっている。この課題が克服されないまま1年が経過することとなった。